

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホーム ベにばら(1丁目)		
所在地	〒078-2100雨竜郡秩父別町1542番地33 (電話)0164-33-2677		
自己評価作成日	平成22年7月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の日々の生活では、理念に基づき、利用者様一人一人が楽しめる、活動やレクリエーション等を考え、実践している。又、利用者様の安心、安全を支援出来るよう、コミュニケーションを常に取るよう心掛けている。入居者様が、地域の一員として豊かに過ごして頂けるように、積極的に地域のイベントに出席したり、事業所内では、地域の方々との交流会やイベントを行い、地域の方々とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigocho.net/hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400013&amp;SCD=320">http://system.kaigocho.net/hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400013&amp;SCD=320</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、秩父別町の中心部に近い住宅街に立地している。開設は平成14年であるが、社会福祉法人化されたのは平成19年であり、事業所としては開設8年が経過し、基盤がしっかり出来ており、また地域での知名度も高く地域に根付いている。事業所内は、共有空間の居間が広々としており、それぞれの居室は居間に面して開放感があり、利用者が集まる憩いの場となっている。管理者は、熱心に事業所運営に当たり、職員一人ひとりに心配りをしたコミュニケーションも良好である。職員の声かけも優しいトーンで、おだやかで、ゆったりと寛ぐ利用者の笑顔が印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会、スタッフ会議、日々のケアの中でも理念の実践に向け取り組んでいる	利用者が地域の中で、自分らしく豊かにゆったりと暮らし続けることを支える理念を掲げ、職員のネームプレートの裏にも理念を明記して管理者、職員の共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事には出来るだけ参加し、ふれあう場面作りと事業所への理解を深めるように努めている	町内会に加入し、町の行事や催しに参加している。事業所の「べにばな祭り」や盆踊りには地域の人を招いたり、演芸ボランティアに来ていただき利用者との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の役場と連携し、事業所のスタッフが地域の高齢者や家族の方々を対象に認知症の講演を行い、認知症の理解を深めてもらうよう取り組んでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	積極的に意見を出して頂けるよう呼びかけている。又、意見や要望はサービスの向上に役立てるよう取り組んでいる	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、活発な意見を交換している。災害時の地域との協力体制についても話し合っている。	運営推進会議は軌道にのってきているが、事業所が認知症介護の相談や地域の社会資源としての大切な拠点となるよう更なる向上を目指すことを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には、密に連携を取り、相談しながらサービスの向上に取り組んでいる	町の担当者とは連絡を密にし、事業所の現状報告等を行って意見を頂き、相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り、勉強会、研修会などで、身体拘束のついて話したり、学んでいる。当ホームでは行っていない	身体拘束についての勉強会を毎月行い、目標を立て目標達成努力をすることで職員の知識や意識作りに取り組んでいる。職員の身体拘束担当責任者を決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で話し合い学んでいる。今後も現場内で、スタッフ同士のチェックや意見交換で見逃さない環境作りを徹底していきたい		

グループホームべにばら(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、配付された資料や学んだ知識は勉強会で話し合っている。現在必要な方はいないが、対応出来るよう知識を深めておく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される場合に重要事項や契約に関して説明し、不明な点や質問等を伺うようにして、理解や納得を頂く		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満を聞く事が出来るように一人一人の入居者と談話の中でさりげなく現わせる環境や機会を設けている。家族等にも面会等で意見や要望を聞くようにしている	職員は、家族来訪時には積極的に声をかけ、家族の意見、要望が表出しやすいよう努力し、ケアの質の向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や毎日の申し送り等で機会を設けている。反映出来る事は取り組むように努めている	運営者管理者は、個別に職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営の質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者やスタッフの意欲や向上心を促進し、向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意識の向上を目指すために職員全員が目標を持って働けるように、係り当てをし取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所のデイサービス管理者、居宅事業所、訪問サービスの管理者と交流や情報交換を行いサービスの質を向上させている		

グループホームべにばら(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や求めることを傾聴させて頂き、受け止めるように取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今、困っている事や、不満、負担を軽減できるよう、まずお話を聞かせて頂き、ご家族やご本人の一番良い方向性に近づけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームル、インホームルなサービスの情報提供をしながら、納得して頂けるように対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が調理に携わったり、人生の先輩として、経験の中で聞かせて頂き、本人から学んだり、支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常ぬ入居者と談話し、話の中で寂しそうだったり、必要があれば面会に来て頂いたり、病院に受診して頂いたり、理解と協力を頂いてる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの面会も自由に出来るようにしている。また、住み慣れた場所へのドライブに出掛けるなどしている。馴染みの医療機関、お店等の利用も支援し、関係が途切れないように努めている	職員は、利用者の馴染みの関係を大切に、床屋、パーマ、店 など希望に添って昔からの行きつけの場所に出かけることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が談話されたりする機会をスタッフが間に入って作っている。また、出来ない事を変わりりして下さったりと支えて下さっている		



グループホームべにばら(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の状態や相談を受けたり、ご家族が年に数回、近況報告してくれている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き、意見の把握に努めている。また、訴えない方は状況を見て、本人が何を望んでいるかを考え、本人本位になるように検討している	職員は、利用者一人ひとりに寄り添って、その人の希望や意向を伺うよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	ご本人やご家族より情報収集し、把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやユニット毎のミーティング、連絡ノート等で、スタッフ間での情報交換を行い、情報を共有しながら現状を総合的に把握するよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族より情報を提供してもらった上、ホーム内の生活の中から課題を見つけ、ミーティングでスタッフからの意見を出してもらい、個人に合ったケアプランを作成し、実施するよう努めている	職員は、利用者の個々の記録を基に家族からも話をよく聞き、それらを反映して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、ケアプランの実践、バイタル、食事摂取量、尿量等、個人別に記録し、個人の課題もケア記録に書き込み、ケアプランの見直しに活かせるようにしている。また、連絡ノートも活用し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があった場合は、ご家族の食事や宿泊にも対応出来るようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで町内の方が、大正琴の演奏にいられたり、フラダンスを見せにきてくれる。警察や消防の連携体制は出来ている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に係りつけ医を受診出来るように支援している。状態に応じてスタッフ、看護師、介護支援専門員と話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している	職員は、利用者、家族の希望する医療機関の受診を支援し、馴染みの医療機関との関係を断ち切らない努力をしている。	

グループホームべにばら(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師や当事業所の看護師、スタッフと情報を共有しながら、相談し健康管理を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院医師、看護師と常に連絡相談体制を築き、早期退院に向けて取り組んでいる		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、話している。具体的に記載された重度化指針を新たに作成した	事業所の利用開始前には、事業所の指針を示し段階毎に本人、家族、医療機関の連携のチームワークで支援するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受け、勉強している。また、勉強会などで看護師に応急手当などの指導を受け、勉強している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、全員が対応出来るようにしている	職員の救命講習は毎年受けている。災害時の連絡網も出来ており、昼夜を想定した避難訓練も行っている。運営推進会議を通じて地域の協力要請も出来ている。	避難訓練等は地域の協力をお願いするのみでなく、共に訓練に参加して共同するところまで考えて話し合うことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねる対応や声掛けは行っていません	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けにより、入居者の希望を確認している。自己決定が出来ない入居者にはわかるように説明し、スタッフが見極め進める時もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、急がすことのないように支援している。スタッフの都合が優先している場合が見える時がある為、注意したい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室が特定している場合は、送迎している。身だしなみも自由に出来るよう、支援している		

グループホームべにばら(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食事の片づけなど、出来る方が出来る事をスタッフと一緒に取り組んでいる	職員は利用者ど食材を買いに行ったり一緒に食事の仕度をしたりして食事が楽しみなものであるよう取り組んでいる。配膳や茶碗拭きを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の持病や体調に合わせて、食事量、水分量に合わせて対応し、個人の咀嚼状態や嚥下状態に合わせて、きざみ食やミキサー食を提供し、むせ込みやすい方には水分にトロミを入れ提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後、口腔ケアを実施し、その方の力に応じた支援をしている。舌苔についてもガーゼを使用し、舌の色にも注意している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握し、定期的や訴え時にトイレに誘導するなど、個々に合わせた排泄ケアをしている。また、声掛けにも注意している	排泄記録、水分摂取量記録をして利用者の排泄パターンを把握し、職員は何気なくそっと促したり、誘導したりして、自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を把握し、便秘傾向にある入居者については、水分量や運動、下剤服用など、ケアプランに位置づけ、便秘予防の方法をスタッフ間で話し合っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望日やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している	入浴は午後から利用者の希望に応じて支援している。週3~4回入浴する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている入居者は好みに時間に好きな所で、横になって休んで頂いている。介助が必要に入居者に対しては、訴え時や状況に応じて、ベットやソファで休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は勿論、新しく処方された薬についても副作用、用法、用量について全スタッフに伝え、通院記録等で確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで家庭でしてきた趣味などを、ホームでも行えるよう支援している。外出や散歩も取り入れ、季節環境の変化も楽しんで		

グループホームべにばら(1丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温、体調や気分考慮しながら、出来るだけ希望に沿って、散歩や外出出来るよう支援している。	職員は利用者の希望やタイミングに合わせて、散歩や買物など戸外に出かけてる。紅葉、花見、ドライブ、道の駅めぐりと事業所で計画する外出行事も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭能力のある入居者には、ご家族と相談し、小銭程度の所持をして頂き、通院時や外出時に欲しい物を購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	まず、ご本人の希望を聞き、ご家族の方にも確認、了承を得、希望に応じご家族への電話を掛けたり耳の遠い方にはスタッフが代わって電話し条件などを変えて伝える支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に合わせて、レースのカーテンで光を調節している。また、季節の花を飾ったり、心地良く過ごせるよう工夫している	共用空間は広々としていて、居間の中ほどには畳の小上がりがある。利用者はソファなどで寛ぎ、安心して過ごしている。壁には写真や利用者の作品が飾られていて家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、落ち着ける場所に座ったり、横になったり自由にして頂き、時には入居者同士で思い思いに過ごせる空間作りを行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にはご本人が使い慣れた物や心地良く過ごせる物を持って来て頂くよう話し、持って来て頂いている	居室は明るく作りつけの収納スペースも大きい。利用者は使い慣れたものを持ち込み、家族の写真を飾ったり、仏壇を置いたりしてその人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやその人に合わせ、ベットの横には、立ち上がりリバーを設置するなどし、安全に行動できるようにしている		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400013		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホーム ベにばら(1丁目)		
所在地	〒078-2100 雨竜郡秩父別町1542番地33 (電話)0164-33-2677		
自己評価作成日	平成22年7月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400013&amp;SCD=320">http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400013&amp;SCD=320</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々と共にというケア理念を基に、地域の一員として安らぎのあるその人らしい生活を送って頂けるようにスタッフ一同ケアに努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や地域での買い物など近所の方々や地域の方々との世間話など機会を作り日常的に交流を図れるよう行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の役場の協力の中、地域の方々に認知症についての症状や状態、理解や対応方法などの講演を行い認知症について理解していただけるように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現在のグループホームの状況を報告を行い、地域の皆様より意見を頂きサービスの向上に活かしている。また、地域での交流方法についても意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に地域の役場の担当の方と情報交換を行い、グループホームの状況報告や、現在の地域の現状などの情報を頂くなど協力関係をj得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の担当責任者を取り決め、毎月に身体拘束についての会議を行い、スタッフ一人一人に知識や意識づくりを行っている。また、月ごとに目標を立て、全スタッフと目標達成するため努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての担当責任者を取り決め、毎月に虐待についての会議を行い、スタッフ一人一人に知識や防止について話し合いを行っている。また、月ごとに目標を立て、全スタッフと目標達成するため努力している。		

グループホームべにばら(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアカンファレンスの中で、日常生活自立支援事業、成年後見制度についての知識を話し合う機会を持ち、入居者さん一人一人の必要性や活用していくことが望ましいか会議を行い、必要があれば専門機関に相談していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、本人、ご家族の方とよく話し合う機会を持ち、双方の不安に思う点、疑問に思う点、様々な気になることがないか聞き取り、説明を行い、十分に納得して頂けるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明の際や日常、ご家族来訪時などに意見や要望を訪ね、ご意見を頂きサービスの向上に努めている。また第三者苦情窓口を設け、外部者にも意見を頂けるように対応を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に全体会議を設け、グループホームの運営についての意見や提案などを話し合える機会を設けている。また定期的に代表者との面談を行い、意見、提案を話していく機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在行っている各ケアに対する担当責任者の実施状況や給料水準、労働時間、年数、スタッフ個々の思いなどを把握し、個々に話し合いの機会を持ち、良い職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人の力量やケアの実施状況を把握し、各スタッフにあった研修を受けて頂いている。また、研修後の報告の中で、他のスタッフとの知識の共有を行い全体でトレーニングしていけるように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、地域の同業者や他市町村の同業者との交流する機会をもち、相互の情報交換、サービスについての話し合いを行い、ケアの向上に努めている。		

グループホームべにばら(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用以前より、本人との信頼関係が出来るように何度か面談を行い、本人の思いをしっかりと聞けるように努力している。必要があれば、不安の解消の為、ご家族と話し合い、お試し宿泊や、土日の帰省などその方にあった対応を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをしっかりと話して頂けるように何度か面談を行い、不安や困っていること、要望などに耳を傾け安心して頂けるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で、本人の思い、ご家族の思いを相互に見極め、現状にあったサービスを考え情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さん個々の状態に入合わせて、料理、掃除、洗濯などスタッフとともに行い、一緒に生活している一員と提供している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話、ケアプラン説明時など、ご家族の方と共に、その方の支援方法を考え、ケアをご家族と共に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所やなじみの人と関係が途切れないように、定期的にその方のなじみの場所、人を訪ね関係の継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん一人一人の性格や人間関係などをスタッフは把握し、入居者さんが円滑に日々を支えあって生活していけるように例えば、共同で何かを行う機会を作り皆が良い関係になり支えあえるようスタッフは間に入り対応するなど心がけている		



グループホームべにばら(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に退所された本人、ご家族と連絡をとり、現在の状況や困ったことなどさりげなく聞くなど相談に乗れるように心がけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者さん一人一人の背景を大切にし、本人の思いや要望、本人らしい生活を毎日送って頂きますようにスタッフは会議を重ね検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	本人、ご家族よりなじみの生活を理解し、過去の暮らしの様子の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者さん一人一人の現在の生活の状況をしっかりと見落とさないように心がけ、現在の心身状態、出来る事、出来ない事を見極め対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ち、思いご家族の気持ち、思いをしっかりと考え、話し合いを行い、本人が本人らしく毎日を生きがいを持って暮らしていけるようなケアプランになるように努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細な変わった様子などを記録に記入し入居者さんの変化に早急に気づきスタッフで情報の共有をしながら、様子の観察やケアプランの見直しの情報としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の変化、事業所の変化などで現在のサービス内容に合わない、又はサービスが行えない状況に場合でも、スタッフ話し合いを行い、サービスを継続して行えるような支援や多機能化を行えるように取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の地域資源を把握し、入居者さんが必要に応じ、本人の生きがいになって行けるように支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族より昔からのなじみの主治医のいる病院に定期的に受診を行えるように対応し支援を行っている。		

グループホームべにばら(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんに変化があった場合は、看護師に状況の報告を行い、入居者さんに適切な受診や処置を行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんが入院した際は、病院の看護師、主治医、ご家族と連携を図り、現在の病状、治療の内容など把握し、早期退院に向けて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の際に、当グループホームでの看護師の常駐時間や行える医療行為を伝え、本人、ご家族の意向を聞き、意向に沿えるよう努力している。また定期的に意向をお聞きしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に看護師の指導のもと、急変、特変時の対応をスタッフ一人一人が把握できるよう研修、勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会長のご協力のもと、地域の皆様に町の回覧板の中に災害の際の地域のご協力を求める文書を配布し、地域との協力を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんへの声掛けや、介助の際には、本人の人格を尊重し、プライドやプライバシーに配慮し、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さん一人一人が自己決定をしやすい環境をスタッフは配慮し、水分時など好きな飲み物を好きなだけ本人に自己決定して頂くなど、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ一人一人は、入居者さんのペースをしっかりと見極め、一日一日の流れを入居者さんを中心として支援し、その人その人の毎日の希望にそって支援を行えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみや化粧など円滑に行えるようにスタッフ支援を行っている。必要があれば、スタッフとともに買い物など行き、生き生きと生活を行えるように支援している。		

グループホームべにばら(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さん一人一人の食の好みや病気の内容をしっかりと把握し、入居者さんと共に料理、後片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は毎日の管理栄養士の考えた献立をもとに入居者さんとともに料理を行っている。水分量も入居者さん一人一人毎日把握し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア	食後は、入居者さんの力に応じて、口腔ケアを行い、自立支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さん一人一人の排せつパターンを理解し、どのように支援を行っていけばよいか会議を行い、本人、ご家族との話し合いの上、自立支援に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者さんお排せつ状況を把握し、便秘気味の入居者さんを確認した際は、看護師相談のもと、運動や水分の摂取、食事療法など工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に時間帯は決めてはいないが、現在の入居者さんは午後入浴の方が多く、午前中入浴の方はまれにしかいないが、午後より自由に入浴できるように心がけている。入浴の嫌いな入居者さんには個別に対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さん一人一人の入眠の状況を把握し、毎日ゆっくりと安心して入眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人一人が入居者さんの薬に対しての把握を行い、用法、副作用などについても理解に努めている。また、誤薬予防のために何度も日付のチェックを行い予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔ながらの趣味や楽しみごとのある入居者さんに対し、変わらずに行っていけるように支援している。本人の能力に合わせ、自信喪失を防ぎ、対応している。		

グループホームべにばら(2丁目)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日天候の良い日は、外に散歩に行かれています。また、ご家族に報告し季節の花や、催し物、気分転換にドライブに定期的に行ったりと対応しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日の買い物や要望があれば郊外での買い物に行かれています。その際は入居者さんの能力に合わせ、お金をご自分で払われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられたり、手紙を出せるような環境にし、遠慮なく行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の担当責任者を中心に毎月の会議の中で、入居者さんが安心して、居心地の良い空間に出来るよう会議を行い、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんが皆さんで談話できる空間と独りでいられる空間を作り、入居者さんの気持ちにあった居場所づくりを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からのなじみの物に囲まれた本人にとって安心出来るような空間をもとに、本人、ご家族と相談の上、安全に配慮した空間になって頂けるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認知が出来るように各場所に解りやすく名前をつけ、自立に向けご自身で見つけたり、生活を行えるように工夫している。		